第５４回　令和８年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時　10月４日（日）午後１時開演

会場　三条市中央公民館大ホール



主　催　三条市・三条神楽保存会

後　援　新潟県、新潟日報社、
株式会社三條新聞社、ＮＣＴ、
ケンオー・ドットコム合同会社

プ　ロ　グ　ラ　ム

1　開会のことば		三条神楽保存会会長	岡田　一栄
2　主催者あいさつ		三　条　市　長	滝沢　亮
3　かぐらの演舞		（解説）神明宮禰宜	三上　正行
（1）先稚児の舞	塚野目	白山神社	
（2）榊　の　舞	田　島	諏訪神社	
（3）神勇の舞	大　崎	中山神社	
（4）鳥形の舞	保　内	小布勢神社	
（5）羽返の舞	塚野目	白山神社	
（6）大鉾の舞	三　条	八幡宮	
（7）太平楽の舞	田　島	諏訪神社	
（8）五穀撒の舞	一ノ木戸	神明宮	
（9）岩戸開の舞	一ノ木戸	神明宮	
4　閉会のことば		三条市市民部長	笹倉　健児

三条神楽が見られる日と場所（奉納日程）

八　幡　宮　（三条市八幡町 12 番 18 号）

春季本祭　５月１６日　午後　　秋季本祭　９月１５日　午後

神　明　宮　（三条市神明町３番９号）

春季宵宮　４月２８日　夜　　春季本祭　４月２９日　午後、夜

秋季宵宮　９月２２日　夜　　秋季本祭　９月２３日　午後、夜

献灯祭　１月１４日　夜

諏訪神社　（三条市田島二丁目 11 番９号）

春季宵宮　本祭りの前日　夜　　春季本祭　４月第２日曜日　午後

秋季宵宮　本祭りの前日　夜　　秋季本祭　９月第２日曜日　午後

白山神社　（三条市塚野目五丁目 16 番 14 号）

春季宵宮　４月１７日　夜　　春季本祭　４月１８日　午後

秋季宵宮　本祭りの前日　夜　　秋季本祭　９月最終日曜日　午後

中山神社　（三条市西大崎二丁目 23 番 16 号）

春季宵宮　本祭りの前日　夜　　春季本祭　４月第３日曜日　午後

秋季宵宮　本祭りの前日　夜　　秋季本祭　９月第３日曜日　午後

小布勢神社　（三条市上保内丙 1288 番地）

春季宵宮　４月１４日　夜　　春季本祭　４月１５日　午後

秋季宵宮　本祭りの前日　夜　　秋季本祭　敬老の日　午後

1　先稚児（さきちご）の舞



塚野目　　白山神社

鎌倉時代の「越天楽今様」を基にした神楽で、白拍子の舞がモデルです。

鈴は三種の神器を表し、季節の天候を表現しています。三条神楽では稚児舞として舞われ、難しい舞であり、太鼓と笛の拍子も長いです。儀式の意味でも重要な神楽です。

2　榊（さかき）の舞



田　島　　諏訪神社

稚児四人によって舞われる舞です。天孫降臨の折、猿田彦大神（さるたひこおおかみ）は天孫の降臨の道すがら、榊をもって、悪神たちを打ち平げたという故実による舞です。

3　神勇（かみいさみ）の舞



大　崎　　中山神社

神の喜び舞われる姿を表現し、神の勇みを現わしたものといわれている一人舞です。

湯立神事の際、特に舞われるしきたりになっています。

4　鳥形（とりかた）の舞



保　内　　小布勢神社

天岩戸の変の折、思金神（おもいかねのかみ）の計らいにより夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられました。天照大神は岩戸の中にあって、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめいていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、手力男命（たぢからおのみこと）が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き大神をお出し申し上げました。

この舞は、その故事にならい、常世の長鳴鶏をかたどって舞われる舞で、動作には鶏の生態をそのまま写し出している所が多く見られます。

5　羽返（はがえし）の舞



塚野目　　白 山 神 社

稚児４人舞です。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

6　大鉾（おおぼこ）の舞



三　条　　八　幡　宮

櫛石窓神（くしいしまどのかみ）が、天孫降臨に先立ち、思金神（おもいがみのかみ）、手力神（たぢからおのかみ）と共に、中津国の荒ぶる神たちを、鉾をもって鎮圧したことに由来すると言われる舞です。

なお、この舞を「地鎮の舞」(または「とこしずめの舞」)ともいい、鉾の霊力を表徴するのがこの舞です。

7　太平楽（たいへいらく）の舞



田　島　　諏訪神社

天の岩戸の変の時、岩凝姥命（いしこりどめのみこと）が天の金山の鍬で八咫鏡（やたのかがみ）を造り、その完成を祝ったという故実による舞です。

この舞には別名が多く、「鏡づくり」「盆舞」「日月」などの呼び方があります。

「鏡づくり」は、八咫鏡（やたのかがみ）を作ったということから、「盆舞」は、採物が盆であることから、「日月」は二枚の盆を日と月にみたてこの名があります。

８　五穀撒（ごこくちらし）の舞



一ノ木戸　　神　明　宮

農夫役の２人と、食べ物の神様である豊受大神（とようけのおおかみ）が五穀の起源を舞います。

鍬（クワ）を持つ農夫が水田を、鎌（カマ）を持つ農夫が田畑をつくる動きを、無言劇で表現します。この無言で表現をする作法を、三条神楽では「遊び」といい、基本的に舞人が自由に表現する形になります。鍬は水田のあぜ道を作り、鎌を研ぎ、雑草を刈る等の動きがあり、鎌は田畑を耕し、雑草を刈る等の動きがあります。

それ以外にもいたずらや一服などもあり、汗を相手に浴びせたり、よくできている水田を妬んで荒らしに行ったり、相手の作物を盗んで自分のところに植えたりと、いわゆる人間臭い演出をします。

途中から登場する豊受大神は、基本的には神様の形としては、農夫には見えていない存在としていて、基本的には日照り、雨風といったような自然を表現しています。農夫２人が最初と最後にお辞儀をするのも、太陽と雨を感謝したものです。

豊受大神の動きも、鈴の鏡の部分を天に掲げ、太陽を表現したものや、鈴の玉を振り落として鳴らし、雨を表現した動きがあります。

五穀とは、古事記では稲・麦・粟・大豆・小豆、日本書紀では稲・麦・粟・稗・豆となっています。

また、舞の中盤にはお供物を撒きます。

9　岩戸開（いわとびらき）の舞



一ノ木戸　　神　明　宮

須佐之男命（すさのおのみこと）の乱行に恐れをなされた天照大神（あまてらすおおみかみ）は、天の岩戸におかくれになり、天地が真暗になってしまいました。そのため邪神が立ち騒ぎ、禍が次々に発生し、困りぬいた八百万（やおよろず）の神々が天の安河原に集まって協議された結果、雨鈿女命（あめのうずめのみこと）が岩戸の前で舞われることとなりました。この舞の面白さに興じる騒々しい様子に、何事だろうと、そっと岩戸から覗き見をされた天照大神を、岩戸の扉のそばに隠れ立っておられた手力男命（たぢからおのみこと）が岩戸を開き、外へお連れ申した由来によるもの。

三　条　神　楽　の　由　来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化８年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう５舞か７舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は 32 舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和 38 年３月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをとおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞